



新年のご挨拶

圭陵会会長 齋藤和好

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様も御元気にお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年11月に入ると、全国的に新型コロナウイルス感染者が少なくなっており、岩手県内においても感染状況が落ち着いたようです。

現在私が所属している一般財団法人岩手済生医会でも、コロナワクチン接種ならびに感染対策を行った上で「県外との往来」「飲食を伴う集まり」等をも容認することになりましたが、12月に入るとデルタ株に代わり新しい変異株のオミクロン株の感染が国内でも発見され、今後の大きな広がりが懸念されており、気を緩めずに感染対策を徹底し、一日も早く収束することを祈るのみです。

岩手医科大学におきましては、令和元年9月に矢巾新病院が開院し、同時に内丸メディカルセンターが再発足しましたが、コロナ禍により医療収入の大幅な減となりました。二病院が相互補完病院として、コロナの影響による「受診控え」を乗り越え、医療収入が少しでも増加の傾向になりますことを圭陵会会員の一人としても願っております。

我が小川彰理事長先生が「世界一の地域医療を目指して 岩手医科大学物語」(潮出版社/2021.5.20発行)の御著書を発行なさいました。本学創立120年の歴史に貫かれた精神や脳外科医を志したことなどが堂々と非常に多く書かれており、素晴らしい御本、歴史本であります。まだお読みになっていない方は、是非お読みになってください。

最近まで先生方にご心配をお掛けして来ましたが、国家試験に関しての本学の状況を申し上げます。

医学部は、新体制で各/全教室員一同が、全学年を通じて医学教育の大改革に努力した結果、昨年は国試合格者数138名と全国トップの成績をあげることができました。歯学部も長期にわたる御努力により、ここ数年来好成績を続けております。薬学部は、現役が中位より上の成績となりましたが、これまでに多数の国試浪人を抱えており、新たな展開が待たれます。看護学部は、昨年3月に初の卒業生を世に送ることが出来、国試の結果も予想通りの好成績でした。以上の如く、医・歯・薬・看の四学部が良い成績を挙げたのも、大学の教職員の御努力に加え、圭陵会の先生方の暖かい御理解と御支援によるものであり、厚く御礼申し上げます。

大学の将来発展にとりまして、特に医師・歯科医師の卒業後教育が非常に重要であります。今回、矢巾キャンパス内に臨床研修医等宿舎「Resident Heim」が建設され、現在200余名の臨床・専門研修医が頑張っておるようです。

本学を卒業した新薬剤師の大多数は、県内の病院やドラッグストア等にて活躍、又新看護師も約半数が本学に就職しており、卒業生である薬剤師・看護師共に引き続き本学及び各同窓会局の実施する卒業後教育又様々な取り組みを通じて、更なる成長が期待されております。

最後に令和3年の圭陵会活動もコロナ禍により会議はWeb開催又は書面審議となりましたが会員の皆様のご協力により、大きな問題もなく本会が運営されましたことのご報告と御礼を申し上げます。

早く、諸会議の実開催・支部との実交流が出来ればと思っております。

以上、圭陵会会員の諸先生方に、今思っております事項や最近の大学の現状などをまとめて述べさせていただきました。

本年も何卒一層の御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

学校法人岩手医科大学 理事長 小川 彰

新年あけましておめでとうございます。

今年も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症に振り回されています。新種のおミクロン株が発見され、どれほどの危険度を持つ変異なのかも明らかでないにもかかわらず、世界中が大騒ぎです。

この大騒ぎの影で、「世界一の医療」と世界から評価されている日本の医療に危機が訪れています。「医師の働き方改革」です。国民も、現場の医師たちも十分な情報を与えられない中で「医療法等改正の趣旨の一部を改正する（医師の働き方に関する）法律」が令和3年5月28日公布されました。法律を制定してから医師（大学病院で働く医師）の働き方に対する分析を慌てて始めるなど順番が逆です。令和6年4月1日実施に向け良質な国民医療の維持に関する検討もなしに「前のめり」で進んでいます。

都道府県の人口当たり医師数には約2倍の開きがあります。岩手県、新潟県で172.7人と最も少なく、最も多いのが東京都で332.8人、東京都、京都府、福岡県、岡山県と続きます。医師数に2倍の開きがある中、全国一律の法律・ルールで縛ることに無理があると思います。

県内9つの2次医療圏の基幹病院（盛岡医療圏を除き1施設ずつ）の多くの病院では、現在

担当している1次・2次救急・当直体制の維持は無理であり、1次救急からは全面撤退との声が聞こえてきます。

岩手医科大学からは毎日約70名の医師が地域医療支援に回っています。大学に働く医師の方が地域の病院で働く医師より過酷であり、働き方改革に厳密に従えば、教育・研究に加え大学の使命である高度医療を維持しつつ、地域医療を手伝うことは不可能です。これは県の『医療崩壊』を意味します。大学からの手伝いなしには、2次医療圏の基幹病院では一般医療すらできなくなるという事であり、救急医療を維持するなど論外です。

大学には世界を相手に日本の医学・医療を守らなければならない責務もありその足を引っ張っています。またその他の多く重大な関連問題を抱えています。「働き方改革」がこのまま進めば日本の国を滅ぼすことになりかねない大事です。医師不足、地方だから特別問題になっているわけではありません。日本の将来に関わる大問題です。

全国各地に同様の問題が山積しています。圭陵会の先生方には、皆様の豊富な経験と知識・頭脳をお借りできればと思っています。



謹賀新年

岩手医科大学 学長 祖父江 憲 治

新年、おめでとうございます。圭陵会の先生方におかれましては、御家族共々健やかな新年を迎えられましたことと、お慶び申し上げます。また、日頃より先生方の温かい御理解と御指導を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

一昨年より世界中を震撼とさせております新型コロナウイルスが猛威を振るっておりましたが、我が国では第5波が終息に向かい胸を撫で下ろしていた矢先、新種のコロナ株蔓延が報じられ、全世界で警戒感が高まっております。人類にとっては、新型コロナウイルスのみならず今後襲来するであろう新興感染症に対し、緊張感を持って先手の対応が重要です。圭陵会の先生方におかれましては、くれぐれも御自愛下さい。

本学では附属病院敷地内にコロナ感染症に対応するため、県の支援により「感染症対策センター」（感染防御のため附属病院の別棟として）を建設中で、4月には竣工を予定しています。感染症対策センター（重症患者入院）を中心に、県内各医療施設と連携して当面のコロナ対応を行ってまいります。

コロナ禍でも、本学の学生教育につきましては対面講義を基本とし、必要に応じWebによるオンライン講義も併用してまいりました。実習におきましても、全学部とも本学での実習は予定通り遂行し、学外実習について中止せざるを得ない場合のみ代替実習を行うなど、学生諸君の学習に極力支障を来さないよう対処してまいりました。但し、感染症対策のためこしばらくの間は、学生諸君に幾ばくかの不自由をかけておりますことに、忸怩たる思いがあります。

令和3年度圭陵会代議員会・総会資料ならびに圭陵会会報（10月号）で詳細な報告を致しましたが、昨春の医・歯・薬・看護学部の国家試験は概ね好成績でした。殊に、医師国家試験では一昨年と同様に好成績で、昨年は138人という全国トップとなる医師を輩出し、歯科医師国家試験は好調を維持し、私立歯科大学

系ではトップ、国公立を含む全国でも上位の成績を挙げています。これも一重に、圭陵会の先生方の御理解、御指導と御支援によるものと感謝致しております。間もなく、今春の国家試験シーズンに入ります。この時期になりますと、学生時代には体験したことのなかった緊張感が押し迫って来ます。より多くの学生諸君が関門を突破し、医療人として最前線で活躍してくれる事を願っております。

附属病院が移転して2年3ヶ月、矢巾新附属病院と内丸メディカルセンターが相互補完して役割分担を果たす体制も、徐々に形を成し、近在の皆様にも認知されつつあります。しかしながら、現状ではまだまだ充分とは言えず、新たな仕掛けを模索しつつ、両病院が岩手・北東北・東北の医療拠点として役割を果たすべく努力する所存です。殊に、内丸メディカルセンターの新改築は喫緊の課題であり、全力を傾け努力してまいります。

今後の本学の発展にとって重要な課題が人造りです。これ迄に何度も申し上げてきたことですが、本学の将来を担う人造りです。各講座・研究部門で優秀な教育スタッフが集まっており、教育・診療・研究における活躍を期待しています。これらスタッフは、学部教育から卒業後教育までを担当しています。殊に、医学部と歯学部では医師・歯科医師の卒業後教育において、いかに多くの若い医師・歯科医師が集うかが大学の力を左右する現実的な問題です。臨床研修医・歯科研修医と専門研修医に対し、魅力ある職場環境と各医局・講座さらに大学の情報発信が重要と考えています。本学のみならず他大学からもより多くの医師・歯科医師が集まってくれる輝く大学造りに努めてまいります。

圭陵会の先生方におかれましては、今後とも本学の発展に向け御指導賜りますと同時に、時節柄御自愛賜りますことをお祈りして、年頭の挨拶と致します。